翌日へ
メニューへ戻る

R1 SG 台湾 FW

11/11（月）

研修６日目、今日は台中から花蓮への移動日です。新幹線の時間まで少し時間があったので、ホテルを出る前に生徒はホテル近くの「宮原眼科」へいってきたようです。「宮原眼科」は、台湾人のみならず外国人観光客も多く訪れる人気のお菓子屋さんです。アイスクリームが有名ですが、菓子もお土産として高評価のものばかり揃えています。それらの箱などの包装も美しすぎるのです。生徒もアイスクリームを食べ、たくさんのお土産を手にしてホテルに戻ってきました。あらためて、商品における包装の重要性を認識しました。

ホテルをあとにし、台中駅に移動。さすが日本の新幹線をそのままパッケージで輸出しただけあって、駅の造りも日本のどこかの新幹線の駅にあったような感じがしました。台北まで約一時間、距離にして 200 ㎞、ちょうど盛岡-仙台間と同じ距離です。車窓からの風景の移り変わりにわくわくしながらの移動です（筆者）。まずは地形ですが、新幹線のルートは、基本多くの部分が洪積台地の上に敷かれています。当然、台地を削る谷や、河川のところは低くなるわけですから高架でつなぐことになります。台地の平坦面では一般には水が得にくく水田には不向きなのですが、ため池も多く灌漑により水田が開かれているところも多くありました。やはり畑の土は赤みがかっていて、鉄分やアルミニウム分を多く含む熱帯の土壌ラトソルであることを実感しました。田んぼでは今は稲穂が実っていて、収穫直前の様子です。確かにちょうど二期の二回目の刈り取りの時期のようです。新幹線は途中「新竹」駅に停車。新竹は「台湾のシリコンバレー」と呼ばれるほどのＩＣなどのコンピュータ産業の集積地域で、地理の授業でも必ず教えるところです。駅前はそこで働く多くの労働者が住まう高層アパートが林立しておりました。車窓からの景色の変化が実に面白い！あっという間に台北駅に到着です。

台北駅構内でそれぞれ弁当やパンを買い、今度は花蓮行きの特急列車「太魯閣号」に乗車です。花蓮まで二時間ちょっとの旅です。乗車して 40 分ぐらい過ぎると海が見えてきました。太平洋です。ここからは右に迫りくる急な山、左は大きく開けた海の景色がしばらく続きます。最高の景色なのですが、多少の疲れもありウトウトしていたら、もう花蓮駅のすぐ近くで来ておりました。ちょっと残念。でも生徒たちも良い休息の時間となったようです。

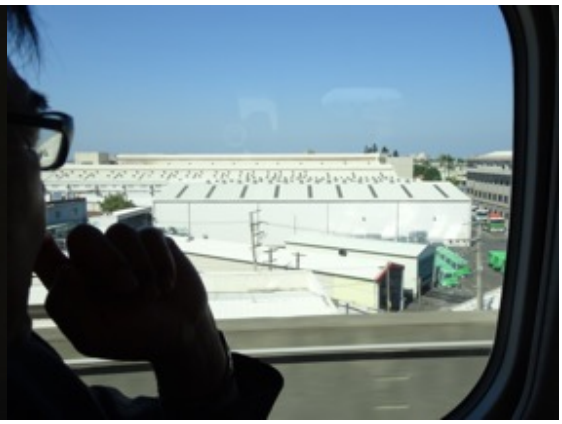
花蓮駅を降りてびっくりしたのは、駅の構内に「盛岡山車」が 11 月 23 日に市内を練り歩くという大きな看板があったこと。しっかり友好都市締結に向けて、宣伝しているようでした。

バスに乗りホテルに到着、夕食までのわずかな時間を使って生徒たち明日の慈済大学附属高級中学との交流会での出し物の練習。明日の交流会が楽しみです！今晩は円卓を囲んでの中華料理、昨年に引き続き生徒たちは香辛料の「八角」が苦手のようで、ガイドの黄さんのはからいで、八角を全く使わない料理を提供していただきました。黄さんありがとう！（生徒一同）

筆者も連日の食べ過ぎで、座る時に今までにない感覚が腹部に生じています。この邪魔なものは・・・。今夜も満腹のまま眠りにつくのでした。おやすみなさい。

高鐵台中站
HSR Taichung station
6 入口
Entrance

Royal Host



鑫品酒店

2019花蓮溫泉季
盛岡山車
11/23
2019 Hualien
太平洋溫泉花車
嘉年華